

2011年(平成23年)11月6日(日曜日)

中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<14>

先日、ある民放番組でアマモ場の再生について放映されました。有名な能人が、浅場再生や水質浄化を目的に取り組むという内容。ある時期までは、アマモやアサリなど多くの海洋生物が発生し、このまま順調に生育すると思われました。

ですが、ある日突然、青潮が発生してプランクトンなどが腐敗し、それに伴って発生した猛毒の硫化水素により、海洋生物は死んでしまいます。硫化水素の影響で黒く変色した湖底の砂を、整備している姿が映しだされました。

硫化水素の被害

す。実は、未来守りネットワークが移植したアマモも同様の被害に遭っているのです。一部の海域では、成長過程のアマモやパッチ状に根付いた群落がオゴノリなどに覆われました。この状態が中海では毎年、繰り返されます。

かつて、中海の海藻類は毎年5万7千ト以上採取されてきました。寒天など食品として加工するほか、農業用肥料に利用され、水質浄化にも役立っていました。

海藻類年間400トン駆除へ

品として加工するほか、農業用肥料に利用され、水質浄化にも役立っていました。

大量に繁殖する海藻類はオゴノリ、ホンジュズモ、ウミトラノオです。その生



腐敗すれば硫化水素を発生するオゴノリに囲まれ、今にも息絶えそうなアマモ

00トを採取予定で、これにより中海へ流入する1日分の栄養塩類を削減することが可能です。

中海の浄化は、宍道湖の水質にも影響があると思います。中海・宍道湖の浄化は両県民の願いであり、ラムサール条約登録地として世界に恥じない対策を、管理者である国にもお願いしたいと思います。

また学校でも時間をかけ、各地域の環境問題について学ぶことが、人間形成の上で重要と考えます。私が尊敬する向井哲朗先生(米子市・彦名テビツ子環境パトロール隊長)は、家庭の生活排水をきれいにし、中海に流すよう教える環境学習を長年されています。このような地道な活動がいつの日か実を結びます。今後も中海再生に取り組みます。(未来守りネットワーク理事長・奥森隆夫)